



上北谷 笑楽好 だより No.6

チャレンジ通信

令和4年9月20日

～感染予防対策に、引き続きご協力をお願いします～

「あいさつ」にみがきをかける
～気持ちのよいあいさつをひびかせよう～

校長 藤ノ木 昌史



私の通勤途中のことです。

高校生と思われる女の人が横断歩道を渡ろうとしていました。車を止めると、おじぎをして道路を渡り、渡り終えた後、体をしっかりこちらに向け深々と頭を下げてくださいました。とても気持ちよくなりました。

また、自転車通学の中学生が押しボタン信号の横断歩道を渡る際、自転車を降り、押して渡り、渡り終えると深々とおじぎをしてくださいました。

とても気持ちよくなりました。

そんなことが何回もあり、運転していて「また、あの人に出会えるかな。」と出会いを楽しみにして運転している自分に気が付きました。言葉を交わしたわけではありませんが、道路で出会った人のあいさつが、私の心に気持ちよく響いていることを自覚しました。

夏休み明け、学校では「気持ちのよいあいさつをひびかせよう」を生活目標に掲げ、取り組んでいます。

“気持ちのよいあいさつ”とはどんなあいさつか、子どもたちにモデルを見せしっかりイメージしてもらおうと、職員でモデルを示すことにしました。職員で結成した「上北っ子劇団」が様々なあいさつ場面を寸劇で表現し、気持ちのよいあいさつの仕方を子どもたちと一緒に考えました。



「明るい声で」「元気よく」「相手の目を見て」「ていねいに」等、“気持ちのよいあいさつ”のポイントを整理できました。

それからしばらく経ちました。朝のあいさつ、廊下ですれ違うときのあいさつなど、“気持ちのよいあいさつ”を意識している子が増えています。嬉しいことです。気持ちよくなります。

ご家庭や地域の中ではいかがでしょうか？ 1学期末に行った評価アンケートでは、子どもも保護者も、90%以上の割合で「よい・まあよい」と肯定的に捉えています。

「そこにもっとみがきをかけたい。上北っ子はもっと気持ちのよいあいさつを響かせられるはずだ。」職員はそんな願い（欲）をもっています。

あいさつは、人との関わりを深めたり、心をつないだりする大切な行為です。

ご家族の皆様、地域の皆様、子どもたちが「気持ちのよいあいさつ」ができるようご支援ください。あいさつを促したり、気持ちのよいあいさつができた時はほめていただくと、子どもたちは励みになるはずです。

夏休み～9月半ばの行事アルバム

7月29日(金) みつば3校自然体験教室



上北谷小、見附第二小、田井小の5年生が集い、大平森林公園で自然体験教室を行いました。コミュニケーションゲーム、Eポート体験、ウォークラリーの活動を通して、3校の子どもたちが交流し、親睦を深めました。気持ちを合わせること、力を合わせること、知恵を出し合うことなど、他校の友だちと楽しい体験を通して社会性を高めることができました。

8月24日(水) はざ作り(職員作業)



農援隊 蝶名林正様にご指導いただきながら、稲を干すはざを職員で作りました。子どもたちが頑張って刈り取った稲がはざいっぱいにかかることを想像し、風が吹いても倒れないように、と皆が汗だくで作業しました。

夏休み中、他にも、教室のワックス掛けや外窓の掃除など、環境整備にも職員で取り組みました。

9月8日(木) 全校遊び



「全校で楽しく遊んで、より仲良くなろう」と取り組んでいる全校遊び。今回は、体育運営委員会が企画し、昼休みににおごことドッジボールを楽しみました。ドッジボールでは、勝ち負けよりも、「みんなにボールを投げさせてあげよう」と優しく声がけする高学年の姿があり、とても頼もしく感じました。

9月13日(火) 全校稲刈り

1年生と6年生、2年生と5年生、ペアを作り、上学年がやり方を教えながら、力を合わせて稲刈りをしました。3、4年生は、これまでの経験を生かして、自力で稲を刈りました。

とても暑くなった日でした。それでも、子どもたちは一生懸命働きました。汗だくになりながら、皆最後まで働きました。

その姿を見て、全校で稲刈りを続けている成果を感じました。

NSTさん、みつば新聞さん、見附市市報さんが取材にきてくださいました。取材をしながら、「よく働く子どもたちですね。」と皆さんが子どもたちの頑張りをほめてくださり、とても嬉しかったです。



令和4年度「1学期 学校評価」の結果について

1学期の教育活動の成果と課題を、児童・保護者アンケート等をもとに職員で分析・整理し、改善点など今後の方向性を検討しました。報告いたします。

< アンケート結果 >

< ゆたかな心の育成 > ~『上北谷大好き』を育む~

目指す姿	達成目標値 (肯定的評価割合*)	回答数値	達成度
◎進んで地域とかかわる			
①地域の人や友だち、先生に進んで挨拶する。	90%以上	96%	A
②栽培活動などに進んで取り組む。	90%以上	96%	A
③地域の人や自然、文化に関わる活動に進んで取り組む。	90%以上	96%	A
◎友だちに優しい言葉を掛けたり、相手の気持ちを考えて行動できたりする。	90%以上	100%	A

*「肯定的評価割合」とは、アンケートで「よく当てはまる」「やや当てはまる」という肯定的な回答をした人の割合です。

< 確かな学力の育成 > ~学ぶ意欲を育む~

目指す姿	達成目標値 (肯定的評価割合)	回答数値	達成度
◎自分らしく主体的に学ぶ			
①自分の考えを作ったり、友達の考えと比べたりする。	90%以上	85%	B
②学年×10分+10分」を守って家庭学習を行う。	90%以上	85%	B
③全校漢字テストや学習したことを身に付けるために計画的に自主学習に取り組む。	90%以上	81%	B
④毎日家庭学習に取り組む。	90%以上	96%	A
◎国語と算数の評価テストで、総合得点の平均を基準以上にする。	低学年 A : 90 点以上 中・高学年 A : 85 点以上	国語 A : 5 学年 B : 1 学年 算数 A : 3 学年 B : 3 学年	A B
◎学校以外で、読書を週に5日以上する。	70%以上	44%	C

< 健康でたくましい身体の育成 > ~強い心身を育む~

目指す姿	達成目標値 (肯定的評価割合)	回答数値	達成度
◎進んで体を動かし、体力づくりに励む	90%以上	89%	B
◎月～金曜日に、家に帰ってから、「おうちプラン」を守った生活をする	80%以上	85%	A
◎「健幸貯金」の取り組みを進んでする	80%以上	81%	A

<分析(○)と 今後の取組(☆)>

< ゆたかな心の育成 > ~『上北谷大好き』を育む~

- 「進んで地域とかかわる」「友だちに優しい言葉を掛けたり、相手の気持ちを考えた行動をとったりする」は、共によくできています。保護者の皆様のアンケート結果や地域の方々のお声でも、おおむね好評価です。
- ☆ 挨拶する姿を一層よいものにするために、「気持ちのよいあいさつ」の仕方のポイントを意識させ、できるようになるよう働きかけます。
- ☆ 地域とかかわる学習では、上北谷のよさをたくさん見付け、「上北谷大好き」という心情を高める学習活動をこれからも積極的に進めます。
- ☆ 思いやりのある行動では、全校遊びやなかよしグループの活動を一層大切にし、協力や認め合い、ありがたい言葉の掛け合いなどの行動を積み重ね、定着させていきます。また、日々の教師からの承認により心情の強化を図り実践力を高めていきます。

< 確かな学力の育成 > ~学ぶ意欲を育む~

- 「自分の考えを作ったり、友達の考えと比べたりする」主体的な学習態度は、90%以上には至りませんでした。関わり合いを大切にしながら日々の授業実践の成果が出てきています。
- 「家庭学習をする」ということについての習慣化は、一定の成果が出ています。やるべきことはしっかりやろうと頑張れる子どもが多くなっています。
- 国語・算数とも知識・理解面に対して、思考力・判断力・表現力の面で低い傾向にあります。今、求められている大切な学力であり、能力の育成に力を入れていきます。
- 「家庭読書」の達成数値はまだ低いですが、働きかけに応じて取り組んでいる子が増えています。1日10分の読書時間を家庭で作る働きかけを継続します。
- ☆ 考えの交流を図らせるために、自分の考えをしっかりとらせる時間の設定や関わらせ方の工夫を日々の学習指導の中で進めます。
- ☆ 自主的な家庭学習の姿を求め、自主学習の進め方の紹介や個に応じた計画の支援を継続していきます。
- ☆ 望ましい学習習慣の形成は、家庭と学校の連携があつてこそ成果が上がるものと考えます。声かけ、励まし、賞賛等、学習に向かおうとする子どもの意欲を高める働き掛けを共に進めていくことを願います。
- ☆ 毎日、一冊の本を家に持ち帰り、「+10分」の時間を読書にあてるように働きかけます

< 健康でたくましい身体の育成 > ~強い心身を育む~

- 「体力づくりに励む」と目標レベルを上げたので、評価は少し下がりましたが、体を動かすことを楽しいと多くの子どもが感じています。体育授業やチャレンジタイム、休み時間等、多くの運動場面を作り、励まし合いながら運動を楽しみ、技能習得が進む、それが子どもたちの喜びにつながっている一因と考えます。
- 家庭での過ごし方を「おうちプラン」でタイムスケジュールを立て行うことに前向きに取り組んでいる様子がうかがえます。強調週間だけでなく、日常的に意識した生活ができるかが課題です。望ましい生活習慣の形成のために、家庭と学校が連携して進めていくことが大切と考えています。
- これまでも行ってきた「健幸貯金」の取組を評価項目に加え、楽しんで取り組んでいる子どもの様子を確認できました。一層意識付けて、全員が目標や楽しみをもって進められるよう工夫していきます。
- ☆ 運動する楽しみと体力の向上を目指し、練習方法・環境の工夫、学習カードの活用等、これまでの取組を継続して進めます。
- ☆ 自ら望ましい生活習慣を意識し行動する子どもの姿を目指し、保健指導・学級指導を行います。その上で、自ら立てたプランを常時家庭で目につくところに貼ってもらうなど、自らの生活習慣を向上させる取組を進められるよう、学校と家庭が連携して子どもを支える取組を定期的に続けます。